

あさひ互近所ささえ〜る隊・活動報告

いつまでも安心して生活できるように

買い物に出かける送迎を サポートしています



令和7年2月発行

互近所ささえ〜る隊は、旧市町村単位の5地域と市全体で、各地域・集落に住民同士の助け合いを広めていく活動に取り組んでいます。



「買い物に出かけよう」 社会福祉法人・住民有志による高齢者への買い物送迎支援プロジェクト

朝日地域では高齢化だけでなく、高齢者のみ世帯の増加も進んでおり、日常的に交通手段に困る方が増え始めています。こうした状況に対応すべく、あさひ互近所ささえ〜る隊では、住民同士のささえあいでのようなことができるかを協議してきました。

その結果、「自分で車の運転をしなくなつて買い物に困っているお年寄り」に焦点をあて、定期的に買い物の送迎を住民同士の互助で行う仕組みをまずはつくろう!ということになりました。

仕組みづくりにあたって大切にしたのは、「やる側ファースト」という基本姿勢。ボランティアの方々にとつて過度な負担とならず無理なく参加できるやり方でなければ、取り組みは継続できません。そのため、令和2年から3年かけて、さまざまなやり方で実験を行いながら、最適な方法・仕組みを模索しました。そして、これなら続けられそうだという方法を編み出し、令和5年度から本格的に事業化しています。

本紙ではこの取り組みをご紹介します。



「買い物に出かけよう」10のポイント

①円滑に事業の実施ができるよう、あさひ互近所ささえーる隊メンバーで実行委員会を組織し、実行委員会が事業の実施主体となっています。

②市内にある2つの社会福祉法人にご協力いただき、朝日地域内にある高齢者福祉施設の送迎車両（ワンボックスカー）を借用して送迎を実施しています。車両は、羽衣園（社会福祉法人村上岩船福祉会）の2台と、さわらびセンター（社会福祉法人村上社会福祉協議会）の2台、計4台を使用しています。

③各車両には2名（運転手＋添乗員）のボランティアを配置して送迎を実施しています。（運転ボランティアは安全運転者講習の受講を必須化）

④利用者の公募は行わず、民生委員・保健

師等が支援の対象になりそうな方に直接声を掛けて集めています。（本当に困っている高齢者を対象にするため）

⑤行き先は、原信マーケットシティ、ウオロク村上店（隣接するクスリのアオキでの買い物も可）、イオン村上東店などで、利用者の希望を聞きながら、行き先を変えています。

⑥送迎は、利用者のご自宅に迎えに行き、帰りもご自宅まで送ります。

⑦ボランティアの負担を考慮し、当面は年6回、春から秋にかけて実施しています。

⑧現行の制度下で許容される範囲（Ⅱ白タク行為と見なされない）で参加費を徴収しています。（300円／回・人）

⑨ガソリン代は実行委員会が負担しています。また、借用日限定で別途自動車保険に加入することで社会福祉法人側の負担を軽減するとともに、利用者に対して国内旅行保険を掛けて買い物中の事故（転倒など）にも対応できるようにしています。なお、事故などの緊急対応に備え、連絡網も整備しています。

⑩本事業は参加費だけでは経費を賄いきれないため、朝日地域5つのまちづくり協議会との協働事業として実施しています。

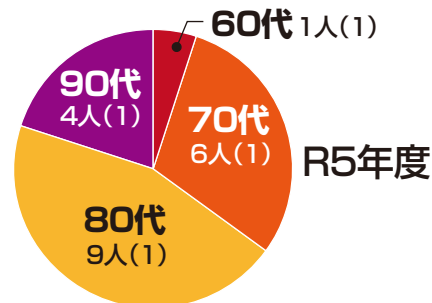


図1 年代別実利用人数
()の数値はうち男性人数

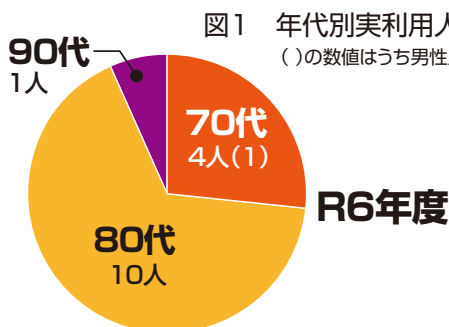


表1 事業化後の利用人数

		R5	R6
のべ利用人数		72人	64人
実利用人数		19人	15人
利用回数 の内訳	1回	3人	1人
	2回	2人	2人
	3回	4人	0人
	4回	2人	4人
	5回	3人	5人
	6回	5人	3人
4回以上 利用割合		52.6%	80.0%

令和5～6年度の実績

2カ年の利用人数の実績は左表のとおりです。

一見、利用者が固定化しているように思われますが、本事業は朝日地域で生活していくのためのセーフティネットという意味合いが強く、一概に参加者の固定化が問題であるとは言い難い面があります。



当日の流れ こんな流れで毎回実施しています



11:30 頃

買い物の時間は、おおよそ40～50分ほど。隣接するお店をハシゴする人もいます。買い物が終わった人は、イートインコーナーなどで休憩＆おしゃべりタイム。



9:50 頃

車両を借用する高齢者福祉施設にボランティアが集合。車両借用の各種手続き・チェックをして、10時頃に出発。利用者のご自宅まで迎えにいきます。



11:45 頃

買い込んだ物を車に載せて帰路へ。各々のご自宅まで送ります。乗車している全員を送り届けたら、車を施設に返却して終了・解散となります。（概ね12時半頃）



10:40 頃

巡回しながら利用者の方々を車に乗せて、各車がお店に到着。到着次第、買い物がスタート。ボランティアの方々は必要に応じて、付き添いや荷物の運搬等を手伝います。



の二つのようです。買い物が終わった後、店内の休憩場所でお茶を飲みながらのおしゃべりも、楽しみの一つです。

利用者からは、毎回ご好評をいただいております。中には、「デイサービスに行く日だったが、このために日にちをずらした」という方もいます。

利用者の反応

表2 ボランティアの人数

		R5	R6
従事人数		19人	24人
役割別人数	運転	11人	10人
	添乗	6人	11人
	両方	2人	3人
従事回数	1回	3人	8人
	2回	9人	7人
	3回	3人	7人
	4回	4人	1人
3回以上従事割合		36.8%	33.3%

2カ年のボランティア従事人数は左表のとおりです。負担無く従事していただくには、一人あたり年2回程度が理想だと考えていますが、現時点ではまだボランティアの人数は充足していません。



運転・添乗ボランティア していただける方を 募集しています！

「買い物に出かけよう」の取り組みを、一緒に支えてくださる方を募集しています。

【所要時間】

- ・平日の午前からお昼にかけて、約3時間半ほど（概ね9時半から13時まで）

【ボランティアの内容】

- ・ワンボックスカーの運転
- ・乗降補助や買い物の見守り、など

※運転ボランティアをしていただける方には、市内の自動車学校で実施する安全運転者講習を受講していただきます。（費用は実行委員会で負担）

この取り組みを無理なく続けていくためには、たくさんの方々の協力が必要です。やってもよい、興味があるという方は、以下のお問い合わせ先までご連絡ください。



【お問い合わせ先】

朝日支所 地域振興課 地域福祉室
(あさひ互近所ささえ～る隊事務局)
TEL 72-6887



あさひ互近所ささえ～る隊メンバーによる2年間のふりかえり

あさひ互近所ささえ～る隊の会議の中で、過去2年間の事業のふりかえりを行いました。出てきた意見をご紹介します。

●利用者が固定している傾向は確かにあるが、それだけ「利用されている方がお元気であり続けている証」でもある。ボランティア側にとっても、良い意味での慣れが出てきてスムーズに送迎が出来るようになった。

●冬場もやってほしいという声はよく聞かれますが、ボランティアの負担が大きくなる（雪道での運転等）ので、現段階ではなかなか難しいと思う。

●運転ボランティアの高齢化が、ジワジワと進んできている。継続的にボランティア確保の取り組みを進めていく必要がある。

●これからは新規利用者の拡大が大切だ。周知・呼びかけの方法を、もっと工夫していく必要があるが、どこまでを対象にするかの判断が悩ましい。

●ボランティア確保を円滑に進めるために、年間の実施スケジュールを早めに立て、声かけをした方がよい。

●緊急連絡網は整備したが、事故等なく済んで良かった。

これらの意見を踏まえ、より充実した取り組みとなるよう、あさひ互近所ささえ～る隊はこれからも頑張ります。